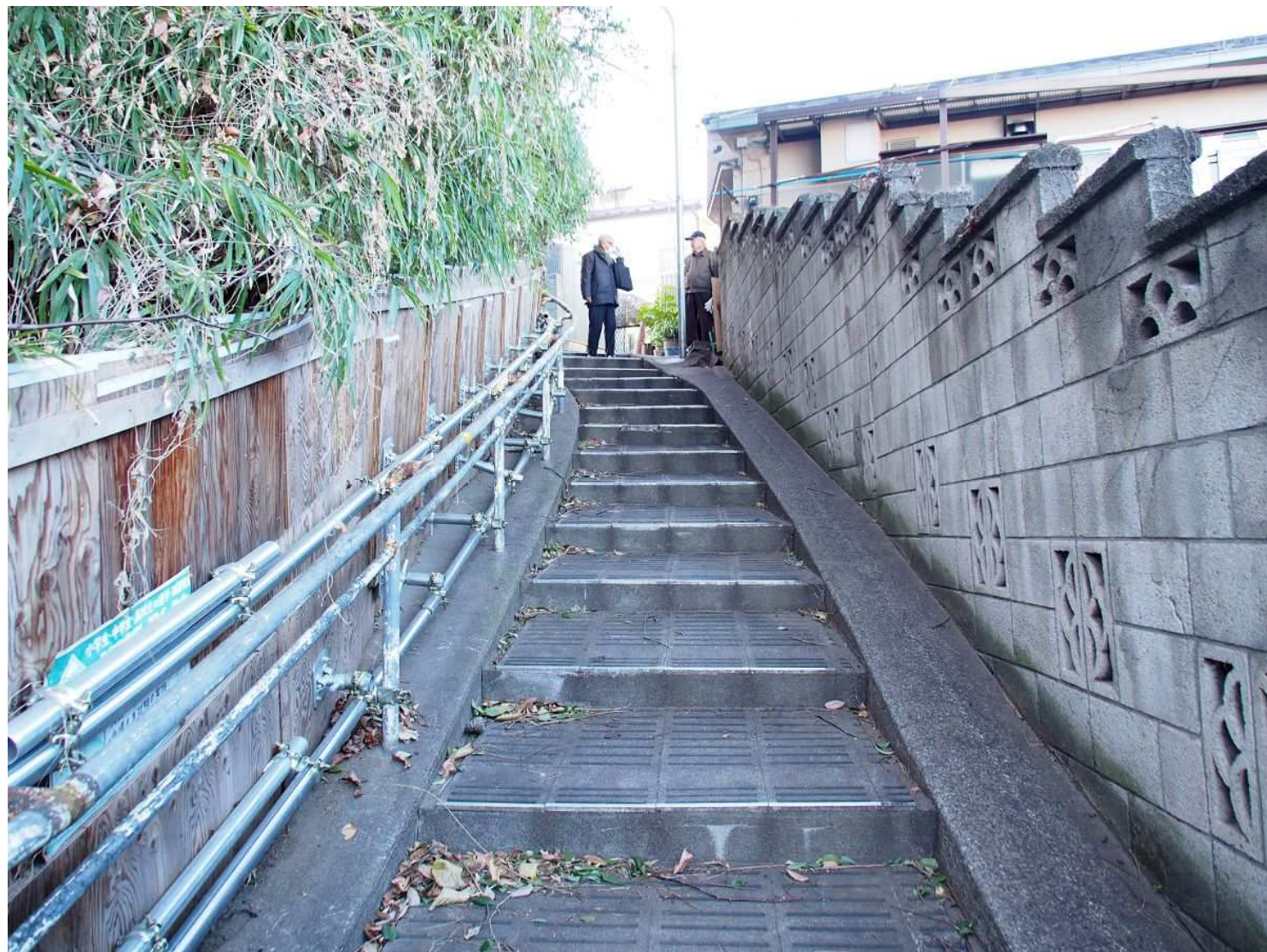




第147回 街なか研究会

「武蔵野台地東端斜面のまち岸町の路地を歩く＆新年会」

レポート

も く じ

1. 岸町・王子街歩き感想 今井 晴彦	1
2. 北区岸町の路地散歩 吉永 哲司	2
3. 武蔵野台地東端斜面地を歩く 伊藤 雅彦	3
4. 武蔵野台地東端斜面のまち岸町の路地を歩く 木村 晃郁	4
5. 配布資料	13
6. 説明資料	17

岸町・王子街歩きの感想

今井 晴彦

東十条から王子にかけての地域は、あちこちこれまでも歩いたことはあったが、間にある岸町は初めてで、その密度高い街並みが急傾斜地にへばり着いている様が面白かった。

上野から道灌山を経て飛鳥山に伸びる台地の端部分は、歴史的な蓄積もあって面白い街になっているが、その末端の岸町は、比較的新しく市街化したとのこと。



急傾斜地の階段路地



台地に向かう路地

高尾案内人が実によく調べていて、適切な解説をしてもらえたので充実した街歩きになった。町内会の会長さんたちまで参加するのだから、その動員力もたいしたものである。

前に雑司ヶ谷の街歩きを行ったが、その際都電で王子はすぐに到達できるので両方をセットにした街歩きはどうかと考えたが、やはり見るところが多々あって、両方一緒になかったほうが良かったと思った。やはり王子近辺は景観も様々に豊で、風情も歴史もあって楽しいところだと実感した。



懇親会にも両会長参加(右端横顔と背中)



昭和の風情を残す柳小路



王子稲荷神社楼門

北区岸町の路地散歩

吉永 哲司

十条駅を出てすぐ西側では、都市計画道路の用地買収済みでほぼ更地になっており、道路造成直前の状況でした。都心へのアクセスもよいので、工事が完成すれば瞬く間に建築ラッシュになる予感がしました。それだけに、修景を含めた秩序ある「まちづくり」が望まれます。

＜富士神社＞は、江戸時代以来の「まち」の象徴であったでしょうが、道路工事直前の仮設状態でポツンと取り残され、将来的にも周りから孤立して無用…あるいは邪魔物にされてゆく気配が濃厚とも見ました。また、＜地福寺＞や＜王子稲荷神社＞＜王子子育地藏尊＞＜王子神社＞など歴史ある施設は、道路計画とは関わらないとしても地域の文化遺産として保全して貰いたいし、その周辺環境維持がこの地域の評価を高めると思えます。

一方、＜名主の滝公園＞はなかなかの規模で、高低差の大きな地形と、池や滝を組み込んだ植栽（荒れてはいるものの）は、当時の庄屋の力と東京西郊外にはない江戸文化を感じさせるものでありました。味もそっけもない都市計画公園が多い中、こうした歴史あるものをどのように改修し、新しい「まちづくり」にどのような生かすのか、それをだれが仕切るのか、興味は尽きません。

岸町の急峻な崖地に密集して「張り付いた」狭小住宅には驚かされました（人間の住宅取得欲求の強さヨ！）。建築基準法の接道規準も満たさず、非常時の避難ルートがあるとは思えず、既存建物の建築に際しては建築資材や機材の搬入の困難さもあったと思わせます。この崖地から見る東京湾方向の景観は、この土地評価を高めるものではあるものの、次の大地震で耐えられるような対応が望まれます。

この散歩のメの飲み会は、料理は期待以上で料金も安く、歴史のある下町の良さを満喫できました。飲み会の会場設定を含め、この企画を計画された担当者にお礼申し上げます。



富士神社仮宮



名主の滝公園



急傾斜地の高密度住宅地



懇親会

武蔵野台地東端斜面地を歩く

伊藤 雅彦

京浜東北線に乗る度に車中から見え、はっきりと武蔵野台地崖線だよなあ、と漠然と認識していた場所を実際に歩くことができました。北区並びに地元町内会長、事務局の皆様ありがとうございました。特にコンパクトにまとめていただいた資料はたいへん役立ちました。実際に歩いてみると、宅地として一体どうなっているのか、これからどうなっていくのかと頭の中がザワつきました。

路地のあちこちにある荒地や空き地、プロパンボンベ、水道栓、マンホールや境界杭も気になります。もはや自転車やバイクさえ入らない立体路地は強烈です。賃貸住宅が予想外に多いようです。足腰悪くなったら車椅子もケアサービスの送迎車も近づけずたいへん。

ゴミ収集もたいへんでしょうがキレイに清掃されていたのも少し驚きです。自治会活動の賜物なのでしょう。広島尾道や神奈川横須賀の路地とも違うようです。平面的に広がる路地空間に、私はつい情緒的な人間の生活の香りを求めがちでしたが、今回はまちづくりの戦いの場所に来たようにも思え、自分の認識の甘さを痛感しました。立体的空間的になるだけでも問題は複雑になるのです。

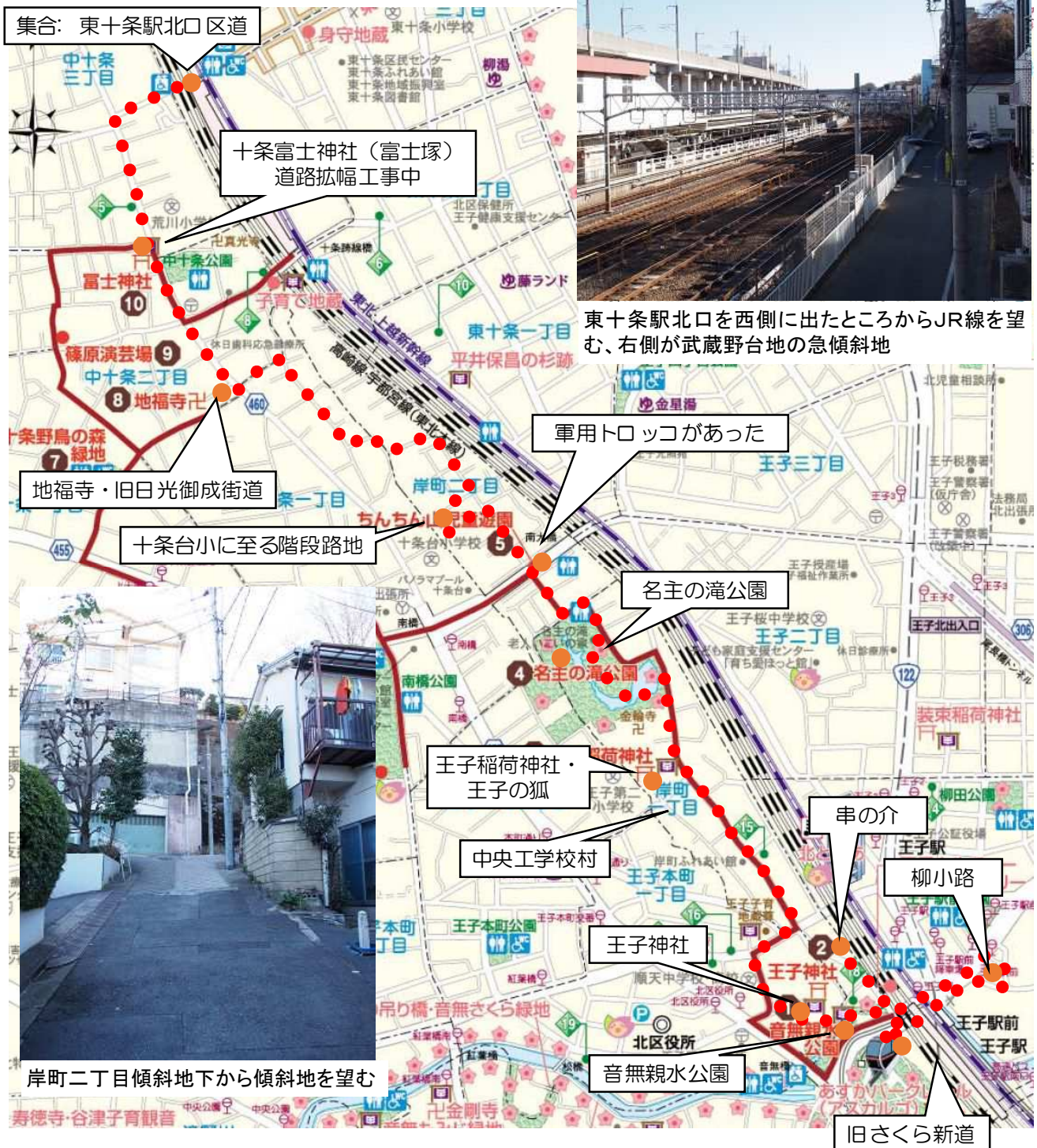


歩き始めた東十条駅周辺へは王子神谷駅から歩いたこともあってむしろ賑わいに関心し駅を貫く立体区道にも興味が沸きました。王子、赤羽、十条という有名な繁華街に挟まれたニッチな場所と思え、「人間的」な雰囲気でなんとも魅力的に思えました。豊かな文化財が多いことも教えていただき、また来ることあるなと心に刻みました。※偶然にも当夜アド街で東十条を取り上げた知り、注目の場所に来られたことがわかりました。

武蔵野台地東端斜面のまち岸町の路地を歩く

木村 晃郁

2023年の第1回の路地散歩は、東京都北区十条地区の東、「武蔵野台地東端斜面のまち」岸町からとなった。岸町は、武蔵野台地東端を十条の東から王子の西までをつなぐように南北に縦長の斜面地の町である。



■東十条駅北口付近

集合は東十条駅北口である。一見 JR 東十条駅のコンコースに見えるが、れっきとした区道であり、崖下の東十条のまちと崖上の十条のまちを階段、エスカレーター、エレベーターでつないでいる。

我々が、東十条駅に集合して岸町を歩いたその日の夜のテレビ東京の「アド 街っく天国」はなんと、じゃない方「東十条」であった。早速、駅北口のエキゾチックな景色が紹介されていた。



区道北 1437 号右は階段、中央エレベーター、左エスカレーター



区道北 1437 号の商店街
道路台帳では 3.77mあるらしい



北口西側に出たところのエキゾチックな風景、この階段も区道

北口 東西自由通路区道を西側に出たところがそのまま小さな商店街になっている。ここの「とんかつ みのや」は、地元では有名な、安くてボリュームたっぷりのお店。私が 20 年前に十条のまちづくりに携わった頃も、地元の人や区役所の人に紹介されていた。当然アド 街でも 11 位にランクイン。

■旧岩槻街道とお富士さん

あっという間に、商店街（65m 程度）を抜けるとそこは旧岩槻街道（日光御成街道）で、東京都による都市計画道路補助 83 号線の拡幅整備が絶賛進行中である。このあおりを食って、沿道にあった富士神社（十条富士塚）が引っ込まなければならず、現在引っ越し工事中で、富士塚のてっぺんにあるはずの祠が今はアイレベルに仮置きされている。ある意味貴重な瞬間に立ち会っている。

さらに旧岩槻街道を南下して、こちら道路拡幅により引っ込んだ地福寺に着く。ガイドの高尾氏は、ここからが本番と日光御成街道と地福寺について、將軍様の休憩所になったと解説を始める。ここの門前に六体の地蔵さんが鎮座しているが、一番左側の地蔵さんが昔から「鎌倉街道の地蔵様」と呼ばれている。

私としては東十条駅南口の傾斜地上に立つ「子育て地蔵」を皆さんに紹介して欲しかったが、私の提案で北口出発になったため、時間の都合上経路から外されてしまった。ここは、春には桜が見事に咲いて、高台からの景色も良く、十条地区の一つのシンボリックなポイントとなっている。



拡幅事業中の旧岩槻街道（補助 83 号線）



東十条駅南口の桜の子育て地蔵尊

■岸町の傾斜地を歩く

地福寺を出て旧岩槻改装の反対側へ。いよいよ武蔵野台地の東端の傾斜地を歩く。台地上の区画道路も地形に沿ってカーブしており、幅員も4mあったり、なかったりと昔ながらの道路である。当然、崖地に向かう路地のほとんどが行き止まりとなり、幅員も一間程度になっている。そのうちの主要な通行路は傾斜地の上下を階段でつないでいる。その階段の途中でご老人が家から出てきていて、そろそろ歩いている我々を見ていぶかしがり、同行してくれた岸町二丁目町会長の鈴木氏に「町会ですか?」と尋ね、町会長は「まちづくり」ですとお答えになられた。「う〜む、そんな高尚なものではなく、単に酔狂な路地歩きなんですけどね」という言葉を胸にしまっただけで階段を降りていく。

階段を降りた先は、今度は上りのスロープになっている。車のスリップ止めの丸い輪の刻みが打ち込まれている。昔、神楽坂の勉強会で講師に、一升瓶を押しつけてつくっていると冗談を言われたことを思い出す。昔ながらの名前を坂につけるとすれば、相生坂といったところか。スロープの方には芝坂という名がついているようだ。



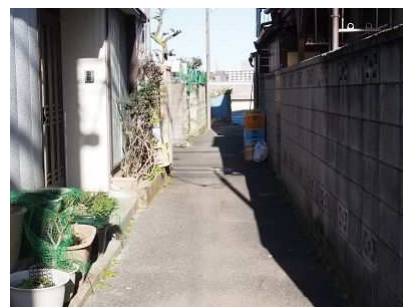
台地から降りていく階段道路



階段途中のご老人と世間話



台地上の通り抜け道路



台地上の道路に直交する行き止まり道路



階段と向かい合わせのスロープ芝坂

階段坂の先を左に折れてさらに緩やかな坂を下りていくと、崖下を南北に貫く道路に出る。この地区の唯一の主要生活道路（密集事業で幅員6mに整備する道路）である。

もう一人の今回のガイド 北区の高杉氏の解説を聞く。この地区はJRの線路と崖地に挟まれ、幅員6m以上の道路が全くない地区であり、大規模地震の際に火災が発生した場合消防活動が困難な地区となっており、この道路を密集事業で幅員6mに整備しようというものである。

確かに、JRと崖に挟まれ、急傾斜地に階段を前面道路にした建物が密集しているこの地区では、こうした道路の整備は喫緊の課題かもしれない。この道路から、両側へ延びる道路はそのほとんどが崖と線路に阻まれて行き止まりとなっている。

この道路の沿道にある児童遊園でさらに解説は続く。この地区は崖地の建物を解体すると、崖が露出して崩壊する危険性があるとのこと。なので、建替えもなかなか進まない。できれば、デベロッパーに大規模に開発してもらって、崖の擁壁整備も一緒にやって欲しいが、事業採算性が望めず、可能性は低いとの説明。確かに、工事費負担が大きくな



台地下の主要生活道路



主要生活道路に直交する行き止まり道路

ってしまうことは火を見るより明らかか。全国路地サミット 2022in 長崎でも傾斜地における空き家や空き地の増加が課題であることを認識したが、東京でも急傾斜地にける都市再生は大きな課題であると再認識した。こうした区域の共同化については、崖地の整備に関して別途補助を用意することが、政府が主要な課題としている国土強靱化に必要なではないかと考える。

さて、まち歩きに戻ろう。児童遊園の裏側に出て半間程度の路地？通路？隙間？を通して崖に向かっていく。ここから、崖上の旧十条台小学校に向かっていくと言う。そして、当然と言えば当然であるが階段を登っていくのである。参加者の高齢者たちは悲鳴を上げ、「これ、行き止まりだよ。この辺で良いかなあ」と聞いてくる。ガイドの高杉氏は遙か前方、いや、遙か上方にいて、聞けないので、「ちょっと待っててくださいと」階段を駆け上り高杉氏に行き止まりであることを確認して、ご高齢のお歴々に合図して、降りていただいた。

階段の途中には、建替ができなかった空き地があり、自転車などのゴミもうち捨てられていた。重機も入れないこのような土地では、工事費も高騰して建替は困難なのであろう。

上がりきったところは、ネットフェンスで仕切られ、言わずもがなのドンツキ！同行の町会長さん曰く、昔は通学としてもこの階段を使っていたとのこと。振り返ると遠くに新幹線を望むパノラマが。しかし、新幹線が無粋で、その先が見えない。

この十条台小学校は、富士塚向いの荒川小学校と合併して「十条小学校」となった。十条台小学校の校舎を建て替えて「十条小学校」の新校舎となる予定で、校舎は閉鎖中であるが、プールは屋内プールでパノラマプールとして稼働中である。ちなみ荒川小学校は、荒川（隅田川）以南の地域（王子村、豊島村、神谷村、下村、岩淵本宿町、袋村、赤羽村、稲付村、上十条村、下十条村、小豆沢村、本蓮沼村の12町村）で設立した小学校ということに由来するらしい。



旧十条台小の行き止まり
昔は通学路でもあったらしい



景色は抜群、でも新幹線が目障り



岸町二丁目児童遊園
遠く上方に旧十条台小学校



児童遊園裏の通路



少し上がっては平らな通路



階段の途中に空き地、建替ができずうち捨てられていく



パノラマプール（北区HPより）

階段を戻り、まち歩きは続く。2 階建ての道路「南橋」下の「ちんちん山児童遊園」で、再び高尾氏の解説。昔のこの道路を軍用列車が走っていたとのこと。その列車が警笛として「チンチン」というベルを鳴らしていたことに児童遊園の名は由来しているとのこと。20 年来の疑問が解けた！



2 階建ての南橋
1階は崖下から崖上の十条地区へ
2階はJR線を越して十条地区へ



ちんちん山児童遊園で高尾氏の
説明を聞く



旧軍用施設の遺構？を使ったモ
ニュメント

■名主の滝公園

さて、武蔵野台地の端、崖地、といえは湧水であるが、その名も「名主の滝公園」に入る。「王子村の名主畑野家が、その屋敷内に滝を開き、茶を栽培して、一般の人々が利用できる避暑のための施設としたことに始まる」とのこと。ということは、湧水ではなくどこから水を引いてきたか。しかし、一方で、「武蔵野台地の突端である王子近辺には滝が多く、かつて「王子七滝」と呼ばれる7つの滝がありました。このうち「名主の滝」だけが現存する唯一の滝となっています。」とのこと。元々あったのか？ 現在は、池の水をポンプアップして水を落としている。稼働時間は 10 時 00 分～16 時 00 分とのこと。庭園をゆっくり回遊し、女滝を目指すが、現在は男滝のみ稼働中とのこと。公園の南側「薬医門」から退出する。立派な木造の薬医門が建っているが、車止めに虎バリが置いてあり、なんとも無粋である。



名主の滝公園「男滝」



名主の滝公園「薬医門」

■王子稲荷神社

名主の滝公園前の道路をさらに南下すると道路がカーブするあたりに大きな瓦屋根を載せた木造の門が見える。素晴らしいアイスストップである。王子稲荷神社の総門というのか、調べても名前が解らない。

門を入って、鳥居の先には強烈な階段である。散々高低差をアップダウンしてきた足と気持ちにはきつい。階段を登ったところには、赤を基調（神社だから当然であるが）とした社殿が鍍金した金具などで絢爛豪華となっている。



アイスストップとなっている門

この神社は、落語の「王子の狐」の舞台であり、毎年大晦日には、JR の線路の向こう側、王子2 丁目の装束稲荷神社から「狐の行列」がここを目指して来るお祭りが行われている。「装束」はこの神社で狐の行列の装束を整えることから来るとのこと。

本殿を右に折れてさらに先に行くと、京都伏見稲荷の赤い鳥居の列柱のミニチュア版が登場、さらにその奥の階段を登った先には、狐が住んだという洞窟がある。



階段に逡巡するメンバー



本殿



鳥居の列柱



狐の洞窟

なお、「狐の行列」は、「王子には古くから大晦日に各地から集まった狐が大きな木の下で装束を整えて王子稲荷神社に詣でたという」伝承があり、この伝承を平成5年から地域の人々で再現したのが始まりだそうである。その木の脇にまつられたのが装束稲荷。最初は小規模だったのが、現在のようなイベントになっているとのこと。北区では、赤羽の馬鹿祭りも、昭和31年に若い商店主が少人数で始めたお祭りで、新しいお祭りを産み育てる文化があるのか。

■王子神社・音無川親水公園

王子稲荷神社の本殿の前を南に抜けていく。階段を降りない水平移動、体力の温存である。沿道は、専門学校の中央校学校村。ナンバー校舎がいくつも並んでいる。新社会人になった頃、ここの校舎で一級建築士の試験を受けたことが思い出される。結局、一次試験を突破できず断念した苦い思い出である。

王子神社にたどり着く。「東京十社」に数えられ、徳川將軍家に厚く表敬されたとある。20数年前の私もそうであるが、王子の狐がここと勘違いする人も多い。

王子神社の大銀杏の脇の階段を降りていく。遊歩道に石が敷き詰められ、桜並木の向こうに石の擁壁の河床と木橋が見える。音無親水公園である。この公園、私はちょっとやり過ぎ感があると思っているが、春の桜は見事である。

ガイドの高尾氏、水脈がどうのと、かなりディープな解説をしている。

■王子駅周辺

さて、まち歩きもラストスパートである。もう少ししたら美味しいビールにありつける。

王子駅の東側に出て、歩道橋を登る。参加者の足が一瞬止まったように見えるが、これが最後の階段ですよと励まして、王子の娯楽ビル「サンスクエア」側に渡る。この北側には、柳小路がある。昭和レトロな飲み屋街で、20年前はこの路上にテーブルを置いて飲むことができた。その後、路地にテーブルを出すことができなくなったようである



王子神社



音無親水公園・音無橋



サービス画像 桜の音無親水公園



柳小路

が、コロナの最近はどうなのだろうか。サンスクエアの脇に「洋紙発祥の碑」があり、渋沢栄一の功績などがサンスクエアの壁面に掲示されている。王子製紙や十條製紙（現日本製紙）など、日本の製糸業の再王手がこのあたりで創業したのである。この近所には独立行政法人国立印刷局東京工場があり、お札や収入印紙、国債などを印刷しているらしい。この工場が移転すると、王子駅前の大規模な再開発が行われ、北区役所もここに移ってくる計画がある。

続いて飛鳥山方面に向かう。ここからは3軌道がいっぺんに見ることができる。都電荒川線の軌道線（1,372mm）、JR京浜東北線の狭軌（1,067mm）、そして、東北新幹線（1,435mm）である。さらに行くと飛鳥山に登っていく「アスカルゴ」が見えてくる。こちらは軌道ではなく、分類上エレベーターだそうです。

その前の広場、高尾氏最後のうんちく。「昔、ここには桜新道という飲み屋街があったが、火事と東京五輪で撤去されてしまった。うんぬんかんぬん」。高尾氏、素晴らしい事前調査とガイドであった。路地協の路地散歩では珍しく参加者から拍手が起きていた。

■懇親会

路地協のイベントは、これがないといけない。王子駅北西側の路地に面した「串の介」が今回の会場。帰宅で夕方打ち合わせしたときなど、高尾氏と何度か利用している飲み屋である。

寒かろうが、暑かろうが、まずビールである。2時間半歩いた体にビールが染み入る。塩味のもつ煮込みが美味しい。



串の助にて



洋紙発祥



3軌道、見えるのは都電のみか



アスカルゴ



在りし日の桜新道



高尾氏の講釈を聞く面々



独結の滝



湧玉の滝



女滝



男滝



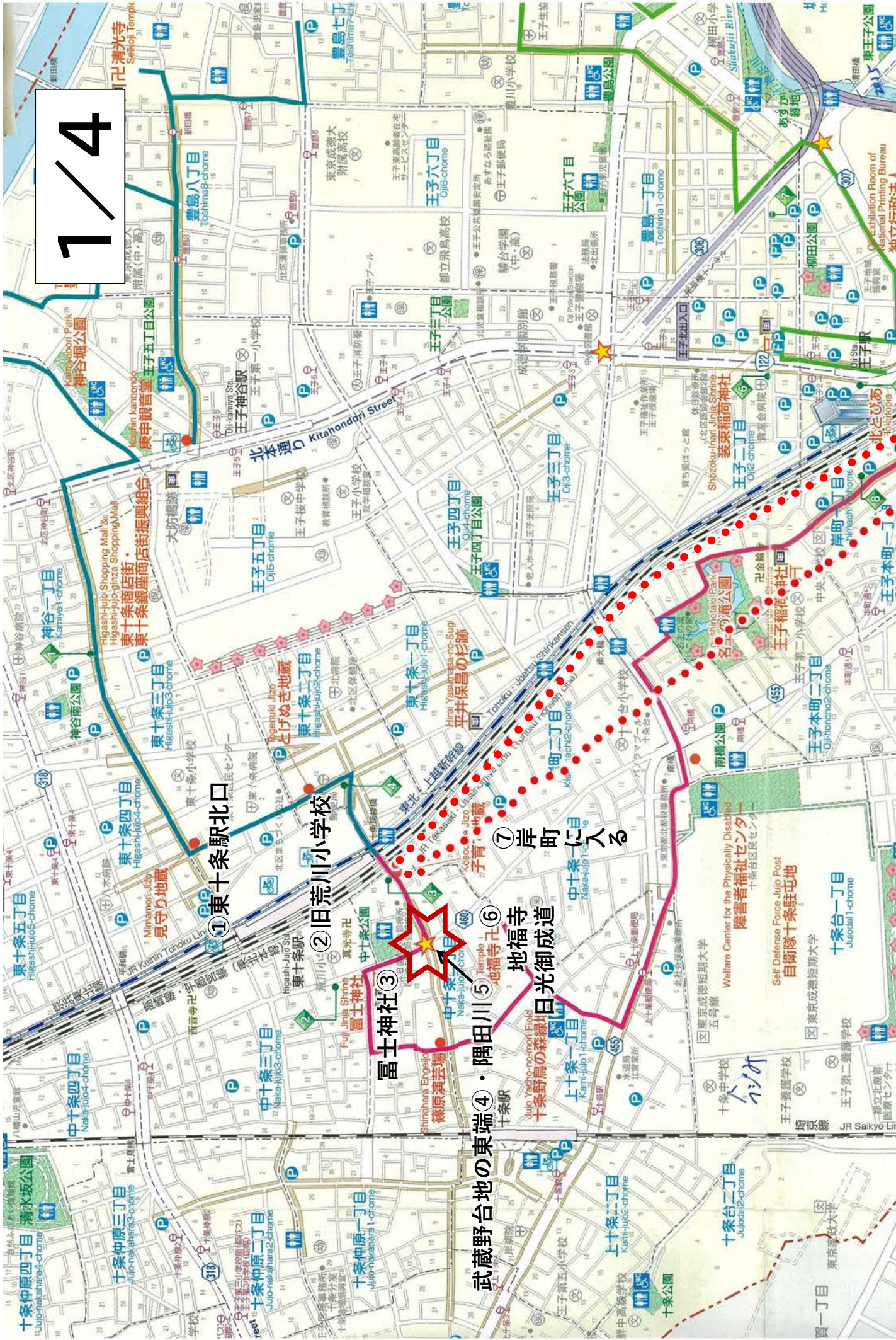
茶室



●ご利用メモ●

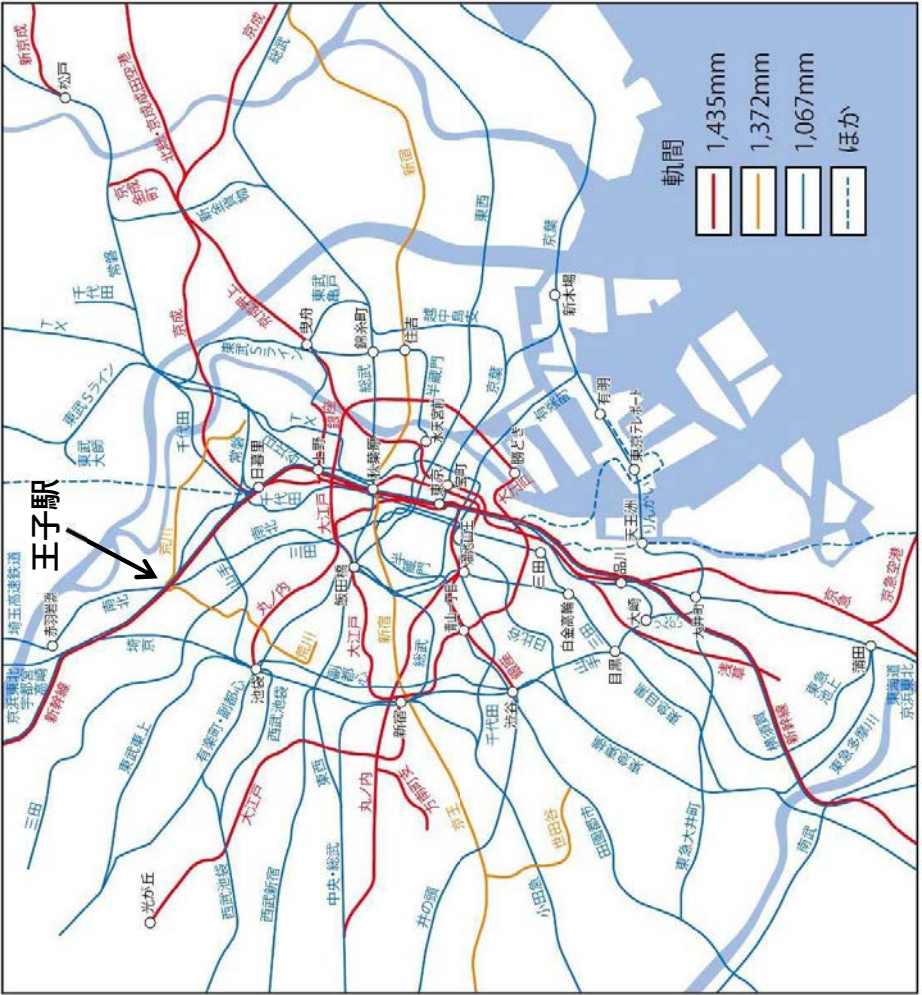
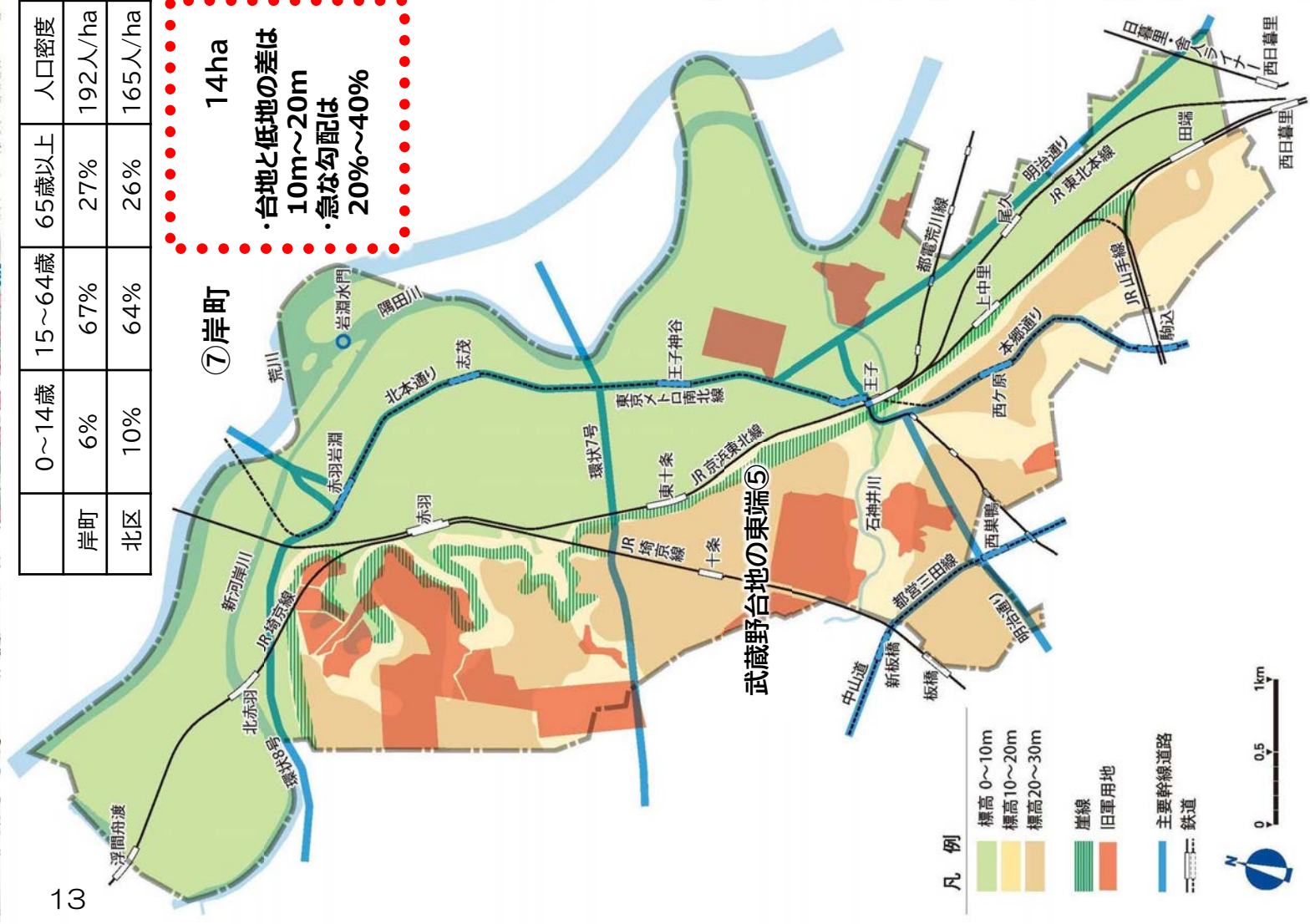
所在地：北区岸町1-15-25（7月15日～9月15日の間は午後6時まで）
 開園時間：午前9時～午後5時（入園は開園時間の30分前まで）
 休園日：12月29日～翌1月4日
 駐車場：なし
 茶室・集会室の申込先および連絡先：北区役所道路公園課 03(3908)9275

この名主の滝公園は、豊富なまでの樹々におおわれた都会の中のオアシスです。柔らかくこぼれてくる木洩れ日に目を細めて、その穏やかな気分に浸る時、緑のある喜びを感じます。シーンと耳を澄ましてみてください。鳥たちのさえずりが途切れることなく聞こえてきます。“ここだけは安心できるんだ”とでも言いたげに、大きな声をだして鳴いています。盛夏の頃になると、滝付近で水遊びをする子供たちや涼を求める人たちが集まってきて、さっきまでのむし暑さを忘れていきます。秋にはカサコソと枯れ葉を踏む音も味わえます。こんなもったいないぐらいに豊富な自然の風情を、思いっきりぜいたくに楽しんでみてはいかがでしょうか？



	0～14歳	15～64歳	65歳以上	人口密度	人口/ha
岸町	6%	67%	27%	192人/ha	
北区	10%	64%	26%	165人/ha	

14ha
・台地と低地の差は
10m～20m
・急な勾配は
20%～40%



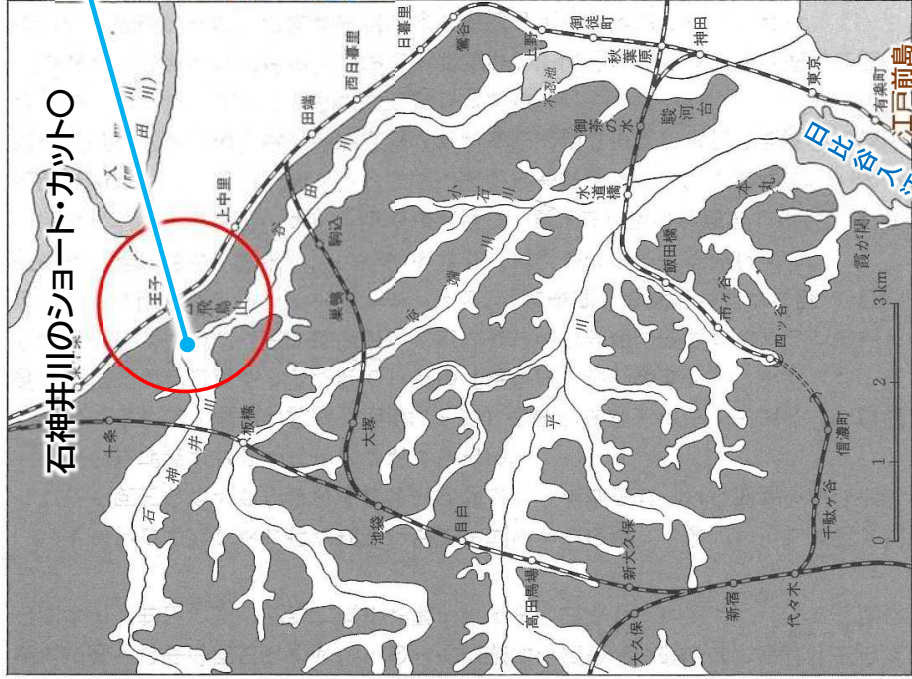


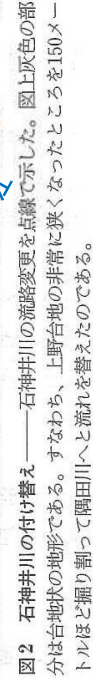
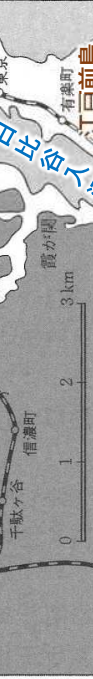
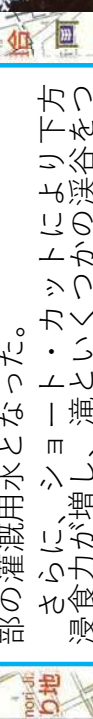
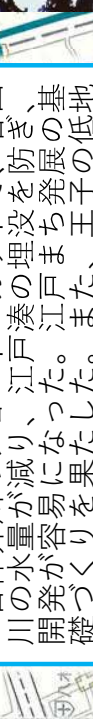
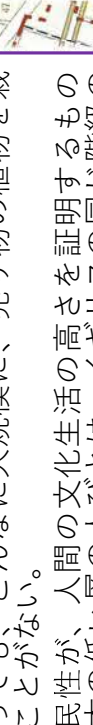
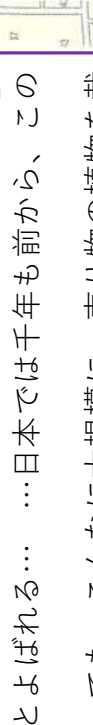
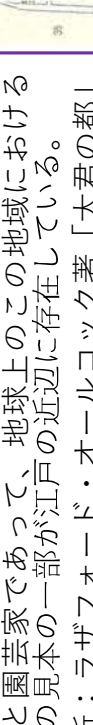
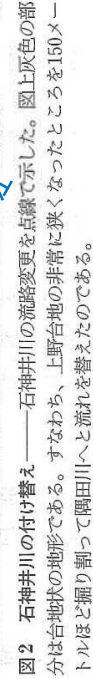
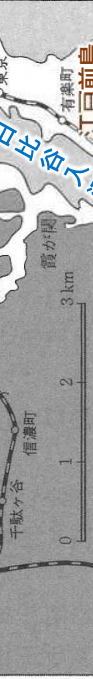
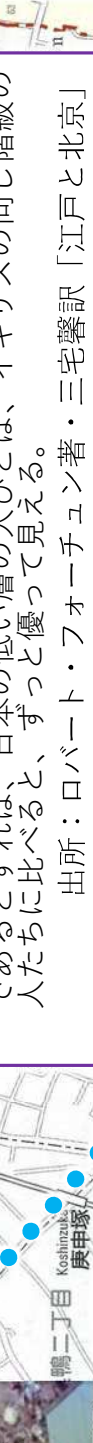
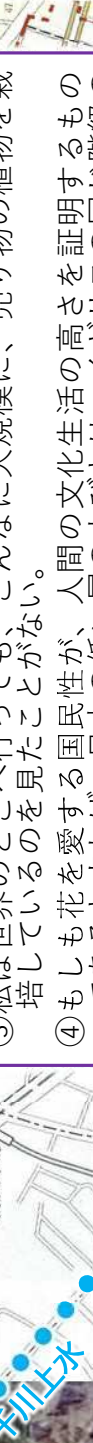
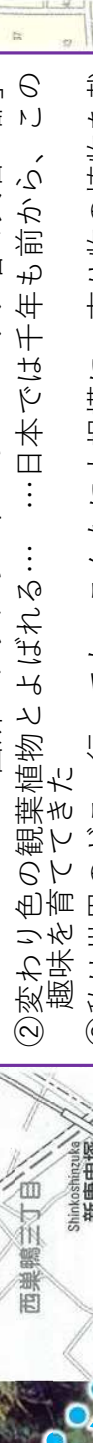
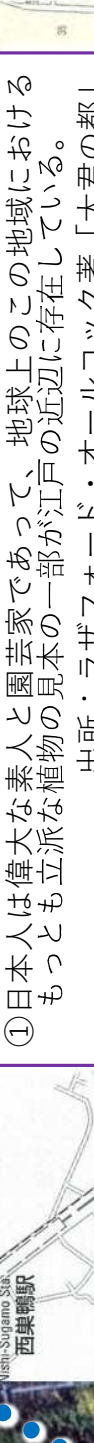
図2 石神井川の付け替え——石神井川の流路変更を点線で示した。図上灰色の部分は台地状の地形である。すなわち、上野台地の非常に狭くなったところを150メートルほど掘り割って隅田川へと流れを替えたのである。



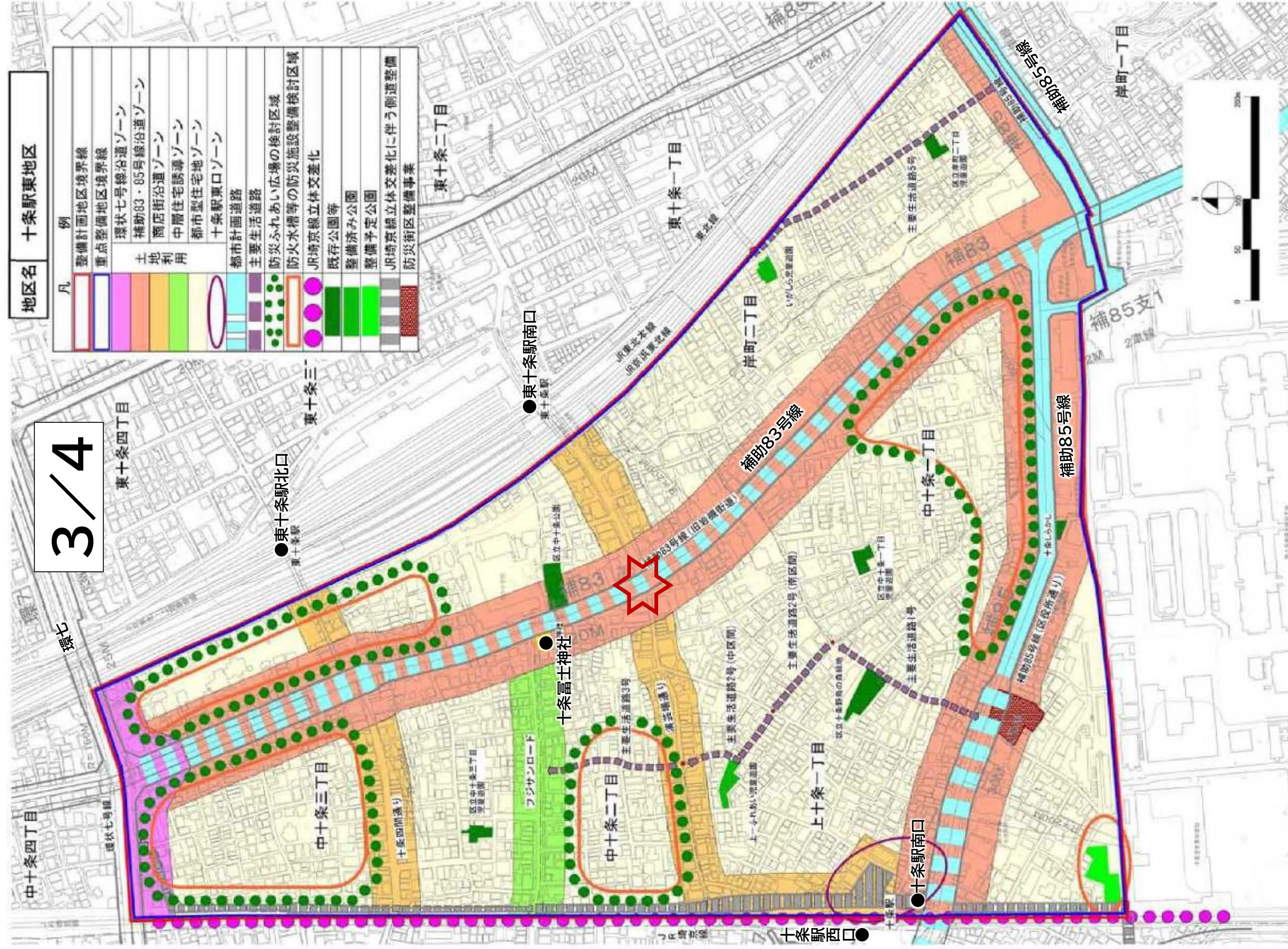
堤の下を横切る区道。この石のアーチが「ちんちん山児童遊園」に保存



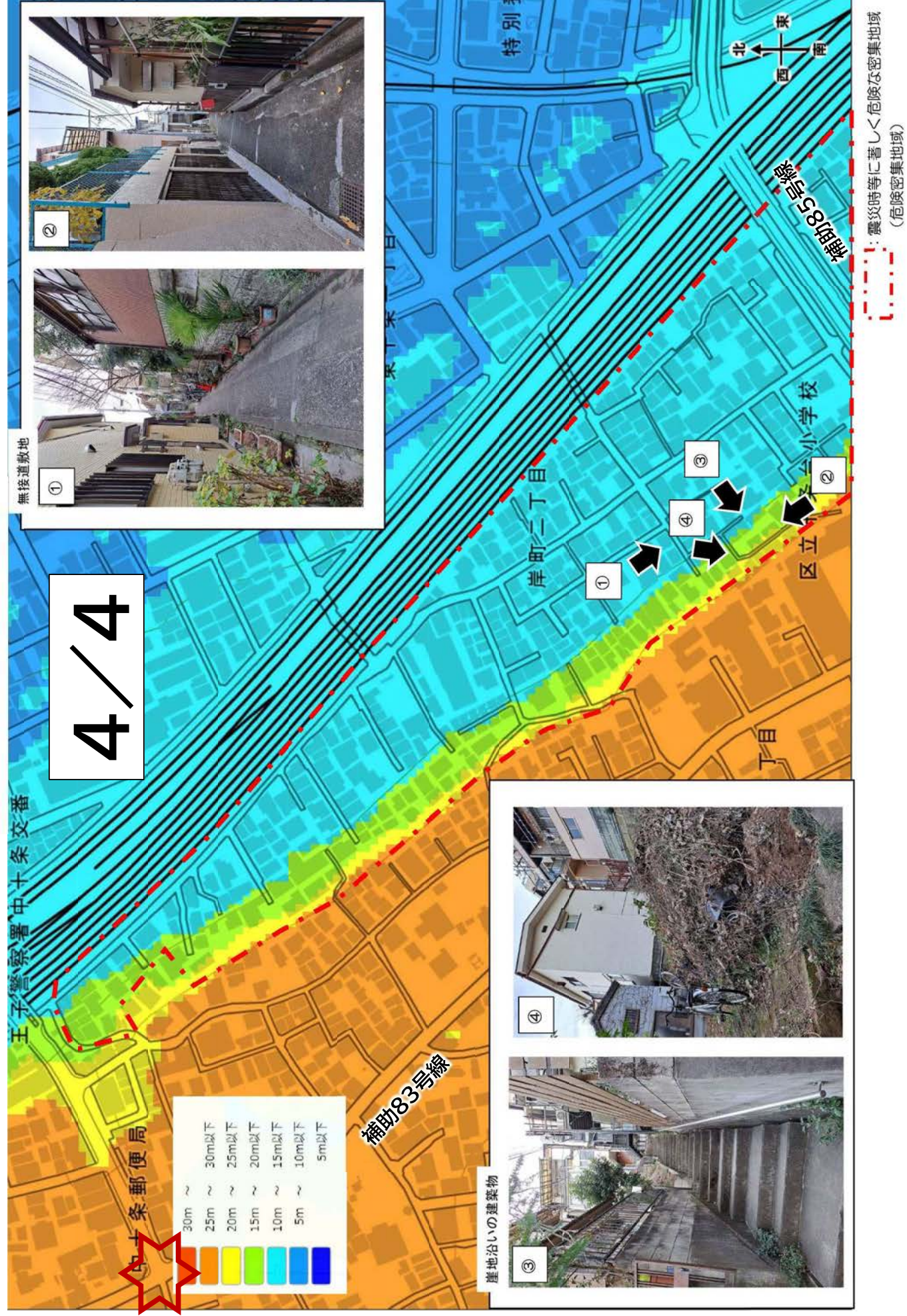
⑧東京砲兵工廠電気鉄道（軍用トロック）



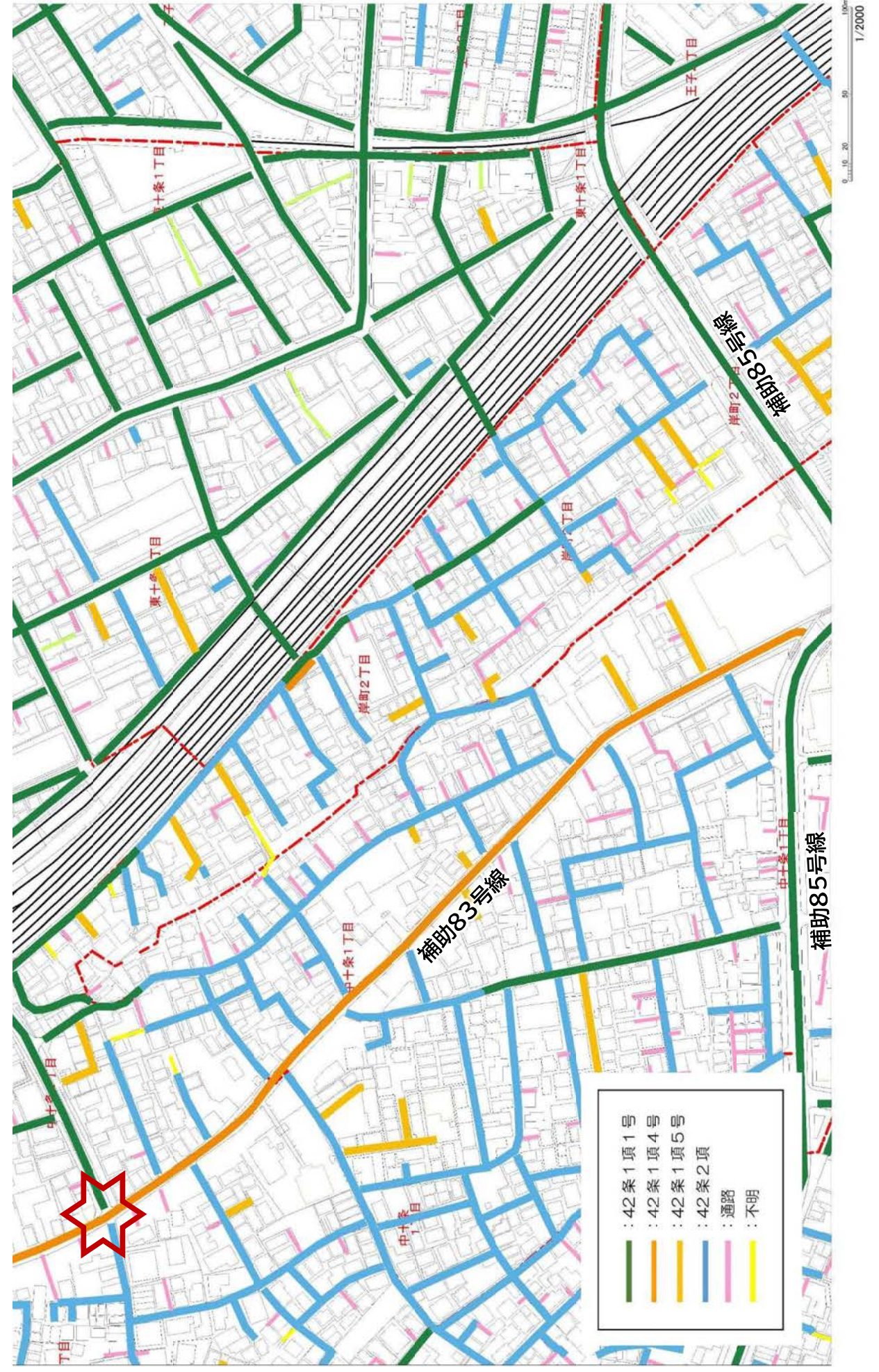
埼京線の東側の住宅市街地整備計画(現行)



岸町2丁目色別標高図



岸町2丁目道路種別現況図



はじめに	● 本日は、これまでの武蔵野台地の東端を歩きながら、台地と低地が織りなす様々な現象や歴史について話題提供 ● 不案内なところがあるため、フォロー役として、岸町1丁目町会長の鈴木さん、中十条2丁目町会長の喜多村さんが同行 ● 参加メンバーが全国路地のまち連絡協議会会員が多いことから、途中、岸町2丁目の立体路地のまちについて、北区役所の高杉さんが案内 ● 16時30分に、呑み会会場の「串の介」になにがなんでも入る予定。よって、すべてを案内することができないかも知れない。
①東十条駅北口	● 昭和3年、赤羽まで京浜線が開通。請願駅として昭和6年に開業 ● 当初は下十条駅。昭和32年に周辺の町名変更で、東十条駅に ● 台地と低地の間にあり、いずれに行くにしてもバリア。北区がバリアフリー基本構想をつくり、エレベーターとエスカレーターを設置。南口はこれから
②旧荒川小学校	● 令和3年度まで荒川小学校という名で、北区の公立では最も古い ● 北区から板橋区にかけて12町村が共同で明治6年に創立 ● 学校の名前を地名にできず、荒川がよく見えたので荒川を冠に ● なお、その荒川は現在の隅田川にあたる。
③富士神社	● 補助83号線の拡幅で避難中 ● かつての富士塚は、溶岩が置かれ、五合目に小御嶽（こみたけ）神社、七合目に烏帽子岩が祭られ、本物の富士山そっくり ● 毎年6月30日と翌日の7月1日の富士山の山開きに合わせ、十条富士講～伊藤元講が主催する大祭が2日間開催。 ● 「おふじさん」で親しまれ、日光御成道～十条銀座まで続く道に露店が立ち並び、多くの人で賑わう。 ● なお、富士塚は、元々は十条台古墳群を構成する古墳の一つ。
④武蔵野台地の東端	● いまから1万年前に気温が上がり海面が上昇し、6・7千年前は、武蔵野台地の東は海で、崖線が海岸線に。その後、3千前になり台地の東は低地部に ● このため、このあたりは縄文文化が栄え、多くの貝塚が発掘 ● 台地と低地の標高差は10～20mほど。名前のある坂が多い
⑤隅田川	● その隅田川は、古くは旧入間川 ● 3代将軍家光のころ、武蔵小室藩の伊奈氏によって上流部で荒川が流路変更され、荒川の本流が注がれた。利根川の東遷・荒川の西遷にあたる。以来、この川は昭和40年まで荒川

	● このため、低地部にやや古い人は隅田川のことを荒川と言う。 ● 昭和40年に河川法が改正され、それまで水路であった荒川放水路を河川として認定し、こちらの荒川が隅田川に
⑥地福寺 日光御成道	● 日光御成道は、もとは太田道灌が岩槻街道として整備 ● 東大赤門前の本郷追分で中山道と分岐し、本郷通りから赤羽駅西口まで台地をとおり、そこからさらに、岩淵の渡し場、川口、岩槻をとおり、幸手で日光道中と合流 ● 47kmあり、みち幅は4.5m ● 日光へは日本橋から千住、草加へと進む日光道中が主流だが、参拝者数の交通量が多かったことから、将軍はこちらを通ることに ● 2代秀忠は2回、3代家光は10回。地福寺はその時の休憩場所 ● この寺の参道は茶垣。このあたりはかつて茶の名産で、お茶の生け垣をあしらった参道にしたら、王子とお茶との関わりに気づいてくれるのではないかと、当時の住職が思いついた
⑦岸町に入る	● 岸町は武蔵野台地の際にあるため、高低差が激しく10m～20mほどで、急勾配は20%～40% ● 岸という地名の由来は、荒川の氾濫原の右岸にあたることから ● 氾濫の理由は、さきほど説明した江戸時代はじめに荒川の本流が注がれたことによる ● 古くは岸村。鎌倉時代の末期～今から700年前に、この近くに王子神社ができると、岸村は王子村と改称。その王子村のなかの1つの字として、岸の名が残る。
路地	● 高杉さん
⑧東京砲兵工 廠 電 気 鉄 道 (軍用トロッ コ)	● 北区には、多くの日本軍の工場が存在 ● それらを繋いだのが区内各地にあった軍用トロッコで、ここ南大橋の前にあった軍用トロッコは台地と低地を繋ぐ重要な路線 ● ここで、北区の大きな土地利用の変化を江戸時代以降からみる ● 江戸時代は、江戸近郊農地として発展。例えば滝野川の牛蒡 ● これが明治になると、農村から一大工業地帯へと変化。紡績工場から、製紙工場、そして日本軍の工場 ● この変化の理由は、武蔵野台地の東端にあり多くの水量豊かな河川が流れていたこと、低地にある荒川の水運が利用できたこと
⑨補助85号線	● 話を軍用トロッコに ● このトロリー形式の軍用トロッコが稼働をやめるのは昭和20

	年の終戦。そして昭和21年に補助85号線が都市計画決定。そして、昭和60年の新幹線整備にあわせて着工し、平成7年にこの南大橋が完成 ● ただ、トロッコの土台がたんに橋に変わったのではない。 ● 戦後も土台は長く残り、子どもたちの遊びの場に。うち会長は ● このような中で、石神井川の改修が課題。河川沿いに不法雑居していた54世帯・206人を移住させる必要 ● その移住先が、ここトロッコの土台が残る補助85号線の計画用地内 ● そこでトロッコの土台を撤去し整地し、仮小屋の集住地区ができあがった。王子バラック ● 映画のロケ地～19歳の地図～当時の社会問題を提起する映画 ● いろいろ調べたり、聞いたりした結果、昭和30年～昭和60年の30年間住んでいたのではないかと推察 ● そして橋の工事にあわせて、近くの都営か区営のアパートに移転
⑩名主の滝	● 江戸時代末期に、王子村の名主が自分の庭に整備したのが始まり ● 昭和13年に、西洋料理店のハシリであった上野の精養軒が買い取り、食堂やプールなどのある施設に。空襲で焼失したが、戦後、東京都そして北区に移管
⑪金輪寺	● 王子神社と王子稲荷神社の管理するための別当寺 ● 以前は、王子神社の前にある北区役所あたりにあったが、幕末に火事で、ここに移転
⑫王子稲荷神社	● 王子稲荷神社は古くは岸稲荷。荒川の流域が氾濫で広がったとき、その岸に鎮座していたことによる。 ● 3代将軍家光のとき、幕府の手によって大造営 ● 王子稲荷神社では、毎年大晦日の夜、関八州の狐が近くの榎のもとに集まり装束を整え、王子稲荷神社へ初詣をしたという伝説があり、キツネたちが灯す狐火によって、翌年の豊作・凶作を占った。 ● 歌川広重の浮世絵にも描かれている。 ● この狐の初詣は、現在は人が（北区が）引き継ぎ、「王子キツネの行列」というイベントが毎年行われている。除夜の鐘を合図に、鉄道向こうの装束（しょうぞく）稲荷神社から、キツネの仮装をして初詣をする。 ● 参考まで、江戸市中は「伊勢屋稲荷に犬の糞」と言われるほど、至る所にお稲荷さんが祀られていた。これは、もともとは、稲

	荷信仰の総本山である京都伏見稲荷が、各地に強力な信仰組織をつくり、とくに江戸に力を入れたことによる。 ●
⑬戦災復興区画整理地区	● 戦災復興第11（王子駅付近）（都）46.4ha ● 昭和21年に都市計画決定、昭和41年に換地処分
⑭王子神社	● 王子神社は、かつて石神井川の沿川一帯を支配していた武士団である豊島氏が、紀伊国の熊野から勧請したもの ● その時期は鎌倉時代末期の1322年で、昨年2022年に700年祭 ● 3代将軍家光のとき、幕府の手によって大造営。また、紀州出身の8代将軍吉宗がその地縁から、飛鳥山を寄進 ● 東京大空襲で社殿をはじめ境内のほとんども焼失。おおいちょうが焼け残る。 ● 参考まで、王子神社を勧請した豊島氏は源頼朝をよく助けたが、昨年のNHK大河ドラマ～鎌倉殿の13人には出演していない。太田道灌に滅ぼされる。 ● 王子田楽という踊りが毎年、奉納。地域のこどもたちが中心。江戸時代までは別当寺であった金輪寺の若いお坊さんが担っていた。
⑮王子という地名	● 格調高い名称。王子神社を勧請したことによる。それまでは岸村
⑯石神井川	● 源流は小平市。主な水源は西武池袋線の石神井駅の南側にある石神井公園（三宝寺池） ● 大昔は王子付近で南に曲がり上野方面に。現在の谷田川にあたる。 ● ところが海面が上昇した6・7千年前に、王子の崖が削られ、その結果そのまま低地部、隅田川へと流れる現在の石神井川に ● この出典は、北区立中央図書館
⑯石神井川のショート・カット	● しかし、歴史学者の鈴木理生氏の説は違う（平成3年発行の「江戸はこうして造られたによる」） ● 本来の石神井川は、飛鳥山の手前で南に向きを変え、不忍池経由で日本橋川の江戸橋付近で海に注いでいた。昨年まち歩きをした人形町あたりだ。 ● これが現在のように飛鳥山からJR王子駅を経て、直接隅田川に流れるようになった時点は、明確ではないが、1300年台で、鎌倉末期から室町時代初頭ではないかと言われている。 ● 時期が違う。6・7千年前ではなく700年前 ● また、自然に削られたのではなく、人為的なものとおっしゃてる。この流路変更に要する工事量は、せいぜい150mも掘り下

	げれば簡単に実現するほどの規模であったことから、このあたりの小豪族の力で十分だったのではないかと ● 何の目的でショート・カットしたかは置いておいて、ショート・カットの結果どうなったか。思わぬ恩恵があった。 ● 石神井川の勾配を急にし、川床を掘り下げる力、いわゆる下方浸食力が増したことで、滝野川溪谷と幾つかの滝をつくり出した。 ● これが、のちに、このあたりを江戸時代随一の行楽地にした理由の1つに ● 広大な武蔵野台地の流れる多くの中小河川のうち、このような溪谷と滝のある場所は、石神井川の「滝野川溪谷」と、世田谷区の「等々力溪谷」だけである。
⑩石神井川の改修	● 緑深い滝野川溪谷は、昭和20年台後半まで続く。 ● しかし、昭和33年の狩野川台風をきっかけに行われた石神井川の直線化と護岸工事で姿を消す。
⑪王子扇屋 (王子の料理屋街)	● このあたりの石神井川は音無川と呼ばれる。少し上流は滝野川とも呼ばれる。短い区間で名前が3つあるのは珍しいとのこと ● 溪谷と滝を観光資源に、江戸時代はじめに王子の料理屋ができる。 ● その名残が王子扇屋。現在は卵焼きを売っている。帰りに寄る。 ● 江戸時代、王子の料理屋街は非常に有名 ● 江戸の料理番付によると、西の大関に王子海老屋、小結に王子扇屋が番付。なお、当時の番付には横綱はない（大関の内数）。 ● 大正時代には、王子の料理屋街は二業地として大いに賑わう。 ● しかしながら昭和のはじめ、王子駅の大規模改修工事で、王子二業地は線路向こうの工場跡地（豊島一丁目）に移転 ● 移転後、三業地として認可されるが、昭和58年、王子三業組合は解散。現在は、このあと行く柳小路商店街にその名残がある。
⑫王子駅	● 北区にはじめて鉄道が通ったのは明治16年。上野と熊谷を結び、このとき王子駅がつけられた。 ● しかしながら、昭和3年に赤羽まで京浜線が開通し、王子駅も途中駅となると、高崎線や東北線は通過することに ● 鉄道は武蔵野台地の東端の低地に沿って整備。これは、低地部にある東京都心部から台地に線路を引くのは、パワーの点から難しかったことによる。また、煙を嫌ったことも ● 高架で走る新幹線、また都電荒川線も含めると、レール幅は、1,435mm、1,372mm、1,067mmの全てが揃う。（標準軌、狭軌）

⑱ 柳小路商店会	● このあたり一帯がもと三業地で、この三角地のみ雰囲気が残る
⑳ 紙のまち王子	● 北区が、本格的に人が住む土地になったのは、江戸時代から ● 王子以北は完全な江戸市外であったが、その際に飛鳥山や石神井川の溪谷があったため、行楽地として人気を集める。 ● これが大きく変化したのは、明治以降 ● 武蔵野台地の東端にあることから多数の水量豊かな河川を抱えていたことと、低地にある荒川の水運が利用できたことから、紡績そして紙の時代に移る。 ● 終戦まで、王子駅前に王子製紙の工場。つくったのは渋沢栄一。日本で最初に西洋式の紙～用紙をつくった。地券用の紙や新聞用の紙 ● なお、その渋沢栄一は、王子製紙を眼下に一望できるよう見守るため、台地側の飛鳥山に自邸を作った。 ● また、現在、この奥に国立印刷局王子工場があるが、かつてはお札用の紙をつくっていた。 ● 現在は、地下鉄南北線の西ヶ原駅の近くにある国立印刷東京工場でお札をつくっている。北区は大金持ちといわれる所以 ● なお、王子製紙や印刷局が王子に置かれた理由は、石神井川以外に、千川上水の水も使えたことによる。水車で機械を動かしていた。 ● 北区の近代化は石神井川と千川上水といった水辺から始まるとよく言われる。そして、こののち日本陸軍の工場が石神井川近くに立地することになる。 ● 参考まで北区の工業は戦後も続くが、昭和34年に成立した工業等制限法により、王子の工場群の発展を完全にストップさせる。そしてその跡地には、高度成長に伴って増加する人口の受け皿として住宅団地が数多くつくられることになる。 ● 北区が23区で異様に高齢化率が高いのは、この住宅団地の高齢化によるところが大きい。
㉑ 旧王電	● 都電荒川線は、かつては王電 ● 王子電気軌道という会社が、明治44年に整備。当初は、人を運ぶことも目的であったが、当時の鉄道会社の多くは沿線の家庭に電気を売っており、この王電も川口あたりまで電気を売っていた。 ● 王電は、王子を中心に三ノ輪、早稲田、赤羽を三方向に結んでいた。 ● 昭和17年に東京市に買収され、昭和47年に、北本通りを走っていた王子～赤羽間が廃止され、早稲～王子～三ノ輪のみに

	● 台地と低地との関係は、王子駅前～飛鳥山間の最急勾配が66.7パーミル（約7%）で、路面電車では日本最急勾配 ● 参考まで、レールと車輪の粘着力だけで走る鉄道の最急勾配は、箱根登山鉄道の80パーミルが最急勾配となっている。粘着式ではなく、日本唯一のアプト式では大井川鉄道の井川線の90パーミル
②さくら新道	● かつては、ディープな飲み屋街。ゴールデン街の一筋のよう。戦後すぐに建設 ● 線路向こうの柳小路飲食店街から、区画整理で斡旋されてここに ● 土地はJR用地で、1年契約で北区が窓口 ● 平成24年の火事で、大部分の飲み屋が消滅 ● 東京オリンピックで消滅 ● 飲み屋街としてのDNAは、江戸時代初めの王子料理屋街に始まり、王子駅の改修で駅向こうに移り、三業地として栄え、柳小路に縮小され、区画整理で、ここさくら新道に移り、そして昨年のオリンピックを目前に完全に消滅という経緯
③アスカルゴ	● 高低差18m、レール延長48mを2分で結ぶ。平成21年から運行 ● 鉄道・軌道路線ではなく、法律上はエレベーター扱い（斜行エレベーター）。勾配は45%ほど（傾斜角度は24度） ● まちづくり交付金～都市再生整備計画事業を活用
④飛鳥山	● 今からほぼ300年前、8代将軍吉宗が享保の改革の一環として、1270本の桜を植えた。 ● 将軍自ら率先して出かけて、無礼講の酒宴を開き、新たに生まれた花見の名所をPR ● それまでの桜の花見は上流階級のみ遊びで、庶民は、桜の名所地では「酒宴」や「仮装」が禁止されていた。これが容認されていたため、江戸っ子は様々な趣向を凝らして楽しんだ。吉宗のおかげ ● 現在、飛鳥山公園は、その魅力向上のためPark-PFI事業に着手。南池袋公園のように、カフェレストランができる予定 ● 23区で最も低い山というのがランキングされるが、このなかには、このあたりの武蔵野台地の東端に位置するものがあり、飛鳥山25m、平塚山23m、道灌山23m。いずれも国土地理院は山として認めていない ● 23区で最も低い山 ● <東京23区低山ランキング>（番組調べ）

	● 1位 待乳山(台東区) 9.990m ● 2位 大倉山(大田区) 15.154m ● 3位 権現山(品川区) 18.213m ● 4位 葦山(大田区) 18.305m ● 5位 新堀山(荒川区) 20.689m ● 6位 大仏山(台東区) 22.067m ● 7位 道灌山(荒川区) 23.341m ● 8位 平塚山(北区) 23.388m ● 9位 佐伯山(大田区) 25.134m ● 10位 飛鳥山(北区) 25.425m ● 11位 愛宕山(港区) 25.7m
②⑤世界三大園芸文化の発祥地	● 世界三大園芸文化の発祥地というのは、まちがい ● まず、世界三大園芸文化とは、中国の宋の時代、今日のイギリスを中心とする欧州、日本の江戸時代 ● 江戸園芸文化は、当時、全世界の花弁園芸文化の中で、もっとも特色のある輝かしい一時期とされている。 ● その江戸園芸は家康から始まるが、3代将軍家光の時から、大名の庭園づくりを中心に活発化。しかし、上流階級のみの楽しみ ● さきほど説明したとおりだが、それが庶民に広がるのが、8代将軍吉宗の時であり、花見とあわせた園芸の庶民化が進む
②⑥プラントハンター	● その園芸を求めて、黒船以降に外国からプラントハンターがやってくる。 ● 当時ヨーロッパで知られていない未知なる植物を探しにくる。彼らは豊かな自然が残る江戸の郊外を訪れては植物の採取を行った。 ● イギリスのプラントハンターであるロバート・フォーチュンは、江戸に来た目的の一つに、団子坂、王子、染井の各所にあった広大な植木屋を訪れることをあげている。文京区の千駄木あたり、染井は豊島区の染井霊園あたり

ルート以外

荒川放水路	● 明治43年に計画が立案され昭和5年に竣工している。実に20年もかかっている。途中、関東大震災があり、通水目前で壊滅的な被害を受けています。この震災のとき良かったことと言えば、開削中の荒川放水路の広い河川敷に役15万人が避難したということだ。荒川放水路の設計をしたエンジニアとして有名なのは青山士であり、日本人で唯一パナマ運河建設工事に携わっている。
篠原芸芸通り	● 埼京線の十条駅と京浜東北線の東十条駅を結ぶ。道のりで700m弱である。 ● この間、自宅があると、埼京線で新宿駅、京浜東北線で東京駅に便利に行ける。
十条跨線橋	● 東北本線旧荒川橋梁のトラスを再利用し、昭和2年に建設された。 ● 老朽化していること、また大型車の荷重に絶えられないことから、架け替えが予定されている。はしご車の消防車は通れない。 ● なお、この橋は、イギリス製であり、近代化産業遺産として優れているため、移設展示を求め陳情する組織がいる。

王子・滝野川

<https://smtrc.jp/town-archives/city/oji/index.html>

陸軍とトロッコ

<http://steam.fan.coocan.jp/haisen/riku.htm>

第147回 街なか研究会
「武蔵野台地東端斜面のまち岸町の路地を歩く& 新年会」
レポート
令和5年5月

発行: 街なか研究会・全国路地のまち連絡協議会世話人会
〒160-0022 東京都新宿区新宿5-5-3
株式会社アルメック内
Tel.03-3353-3203(代) / Fax.03-3353-2411
machinaka@machi-roji.com

